

活動報告

中国教育科学研究院との交流

2019年11月25日中国教育研究科学院（以下科学院）教師教育調査団が筑波大学を来訪し、グローバル教師力開発推進室主催、教育学域・教育開発国際協力研究センター（CRICED）共催の下、教育学域との研究交流並びに教育学域FDが実施されました。調査団は科学院教師発展研究所長張布和（教授／博士：下の写真中央）、同教師政策研究室主任高慧斌（副教授／博士：中央から3番目）、同教師[β人]伍建設研究室主任・中关村第一小学校副校長李新翠（副教授／博士：中央から4番目）そして日本語がご堪能な科学院国際比較教育研究所田輝（副教授）4名（中央から）2番目で構成されました。

9時30分：グローバル教師力開発推進室にて吉田武男室長のもと、教育学域から井田仁康学校教育専攻長、清水美憲教育研究科長、佐藤博志准教授、長田友紀准教授、平井悠介助教、磯田正美教授（CRICEDセンター長）が参加し（写真下）、これまでのそれぞれの機関の交流実績、主題、今後の交流意志が確認されました。

科学院より教師教育に焦点化した日中の共同研究開発の重要性が提案され、吉田室長より、科学院との研究交流を、前期教育学専攻のダブルディグリープログラムを実施する東北師範大学、そして研究交流を重ねる北京師範大学、華東師範大学（以上三大学と略記）と総合して実施したい旨の提案がなされ、賛同されました。

11時：教育学域代表・専攻長室（A201：10月まで教育開発国際協力研究センター）にて、記念品の交換がなされ、和やかに情報交換が深まり、研究交流方法として、科学院が例年9月

に国際シンポジウムを実施していることをふまえ、科学院・三大学との共同シンポジウムの定期実施が話題にされました。午後から唐木清志教授（グローバル教師力開発推進室副室長）が加わり、筑波大学教育学域と旧帝大教育学部との相違点として、教師教育にかかるスタッフ（教科教育学分野）の充実とその研究の蓄積が話題になりました。磯田からは附属小学校の授業研究を紹介しました。

これらの話題を踏まえて、次年度6月、附属小学校の研究会時期にシンポジウムを計画すること、今後その成果を生かし科学院と国際学術誌ないし学術図書を発行することが合意されました。その方法としてグローバル教師力開発推進室が中核となり、教育学域、教育開発国際協力研究センターの支援の下、窓口を唐木教授と田副教授として進めることが確認されました。

14時：張所長より教育学域FDとして、教員・院生向けに中国の教師教育の現状と課題について2時間のご講演をいただきました。

教員の海外出張時期と訪問が重なっておりましたが、人文科教育の大学院生チラムゴさんの通訳によって、日中両国の研究者交流が円滑に進み、実り多く、今後の研究の展開が楽しみな一日となりました。

（文責：
磯田正美）



ポーランド、ロシアの大学との交流

2019年度は教育学域にとってポーランドとロシアの教員養成・教育学研究における重点大学との交流の年となった。以下、その交流内容について報告する。

①ポーランドのクラコフ教育大学との交流

2019年4月26日にクラコフ教育大学就学前・幼児教育学部のムハツカ B. 学部長が率いる代表団3名が教育学域を訪問したことが当大学との交流のきっかけとなった。ムハツカ教授は、今回の来日の準備段階において日本の教育制度・政策、教員養成・教育学研究の歴史と実績を調べた結果、筑波大学を選んだ、と本学との交流関心の根拠を示した。また、クラコフ教育大学は1946年にポーランド初の教員養成高等教育機関として設置された以来、ポーランドにおいて教員養成・教育学研究を先導していることで筑波大学と多くの共通点を持っていることを主張し、今後の実質的な交流に向けて当大学を訪問するように招待した。この招待を受けて、11月16日～20日の日程で教育学域副代表の濱田博文教授とタスタンベコワ・クアニシ助教、教育基礎学専攻院生2名はクラコフ教育大学を実際に訪れた。そこで当大学国際交流副学長への表敬訪問、就学前・幼児教育学部の教員・学生らとの交流のほかに、クラコフ市内の幼稚園、学校を見学し、ポーランドの教育制度・政策について知識を深めた。交流の次の段階としては



クラコフ教育大学就学前・幼児教育学部代表団と濱田博文教授、井田仁康教授、清水美憲教授、藤井穂高教授、唐木清志教授。2019年4月26日



クラコフ教育大学就学前教育学部の教員らと濱田博文教授、タスタンベコワ・クアニシ助教、人間総合科学研究科教育基礎学専攻院生一高野貴人、張信愛。2019年11月19日

2020年4月16～17日当大学の代表団が本学を再び訪問し、教育学域の教員、院生との交流、附属学校の見学することが予定されている。

②ロシアの高等経済学院教育研究所との交流

これまで教育学域の教員レベルで共同研究の実績があったロシアの国立研究大学高等経済学院教育研究所との交流を組織間レベルに上げるために、11月21日に濱田博文教授とタスタンベコワ・クアニシ助教が当研究所を訪問した。当大学は1992年に設置され、ロシアの政治・経済・社会変革をリードする役割を担っている。その中で、特に教育研究所はロシアの教育制度、内容、評価の改革の基盤を作成するシンクタンクであり、国際的に認められる教育学研究の実績が豊富である。当研究所のカスバルジャック教育プログラム局長は、濱田教授との懇談時に学校管理職のリーダーシップ開発に関する日ロ比較研究に高い関心を示し、今後の交流の実質化に向けた話し合いが行われた。

(文責：タスタンベコワ・クアニシ)



高等経済学院教育研究所教育プログラム局カスバルジャック A. 局長と濱田博文教授。2019年11月21日